

「令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果」について

【富里市 小学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本市児童の調査結果

本市児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

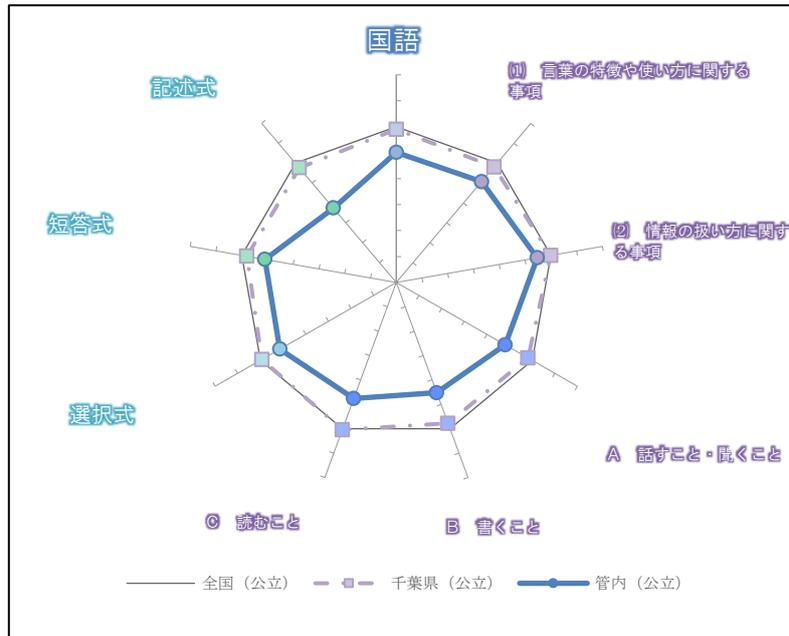
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



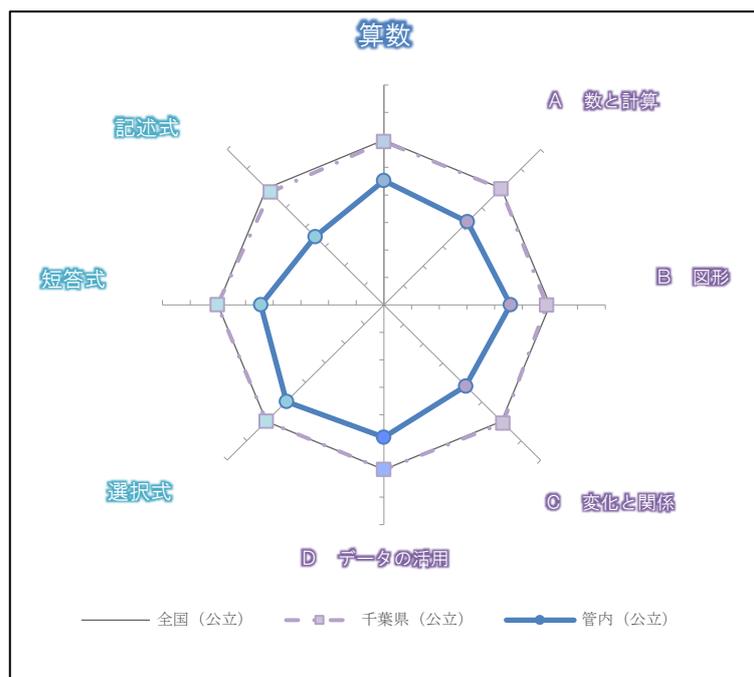
【特徴と現状】

- 「情報の扱いに関する事項」の正答率が、昨年度に比べ県平均・全国平均に近づいています。
- 「書くこと」の正答率が、全国平均や県平均を下回っており、文章を論理的に構成することや伝えたい内容を具体的に表現することに課題があります。昨年度に比べ県平均・全国平均に近づいていますが、「物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く」ことについての解答類型を見ると、無解答が約25%と全国平均や県平均の約2倍となっており、この点に課題があります。
- 「話すこと・聞くこと」の正答率が、全国平均や県平均を下回っており、話を論理的に整理し、分かりやすく相手に伝える能力や話の要点を捉えることに課題があります。
- 漢字を書く設問の正答率が全国平均や県平均を下回っており、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについて課題があります。また、無解答が「競技」25%、「投げる」13%となっており、無解答の多さも課題であります。

【改善方策等】

- 実生活と関連した情報活用課題を設定し、調べた内容についてのプレゼンテーションを行う等の活動を通してより実践的な学習を充実させてまいります。また、ICTの活用や情報検索や整理、まとめるスキルを強化し、情報の信頼性を見極める批判的思考を育てる指導を行います。
- 書く過程を重視し、下書き→推敲→完成までのプロセスを丁寧に指導し、フレームワーク（起承転結、段落構成など）を教えることで、論理的な文章構成力を高めてまいります。また、物語の読解と書く活動をペアやグループ活動に取り入れ、他者と考えを共有しやすくし、自分の言葉で表現する力の向上に努めます。
- 授業におけるプレゼン、ディスカッション、ディベート等の話す練習の場を通して、要点をメモに整理し、話を組み立てる練習を行ってまいります。
- 漢字を正しく書く力については、「とみの国検定」や日頃のドリル学習を継続して行い、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるよう確実な定着を目指し、ドリル学習を充実させてまいります。

算 数



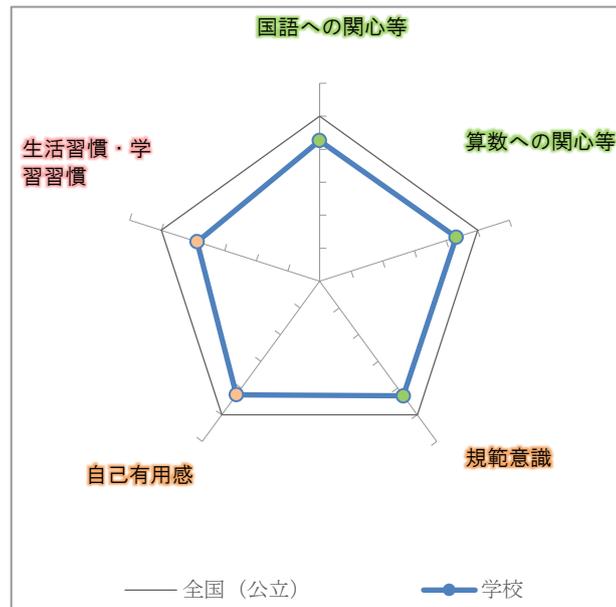
【特徴と現状】

- 「データ活用」領域の「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重ならないように分類整理する問題」の正答率が全国平均や県平均に近い値となっています。
- 「数と計算」の正答率が、全国平均や県平均を大きく下回っています。小数での除法の解答類型を見ると、無解答が約9%となっていました。これは全国平均や県平均の2倍以上となっており、この点に課題があります。
- 「図形」領域の「五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く」ことについて、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみることを趣旨とした設問の正答率が全国平均や県平均を大きく下回っており、この点に課題があります。

【改善方策等】

- 授業において小数の意味や除法の仕組みを具体例や ICT 機器を使って丁寧に再説明し、基本概念の再確認をいたします。また、計算過程の共有と発表活動として、途中式を書かせペアで解法を説明し合う機会を設けることで理解を深められるようにします。
- 授業において、具体物や立体模型を活用し、面の数え方を視覚的に理解させます。また、展開図を使った理解促進自分で展開図を描く活動を通じ、面の構造を整理させます。言語表現力の向上を図るために「どのように考えたか」を書いて説明する活動を増やし、論理的に理由を記述する力を育成します。
- 『とみの国』検定や日頃のドリル学習を継続して行うことで基礎基本の確実な定着を図り、加法と乗法の混合した整数の計算を正確に解くことができるよう、指導を工夫・改善してまいります。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 国語への関心等は昨年同様の値、算数への関心等は過去3年間で最も高い値となっています。
- 規範意識や自己有用感、生活習慣・学習習慣については、昨年度に比べ高い値になっています。
- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」の質問に対して、328人中68人（約21%）が「全くしない」と回答しています。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」の質問に対して、328人中169人（約52%）が「1時間より少ない」傾向にあると言えます。
- 普段の授業で分からなかったことや定着が不十分だったところを家庭において取り組む事に課題がある児童が一定数いるといえるので短時間でも取り組むことができる学習支援等を学校現場でも検討していく必要があります。

3 まとめ

子ども達が学校生活において、規範意識や生活習慣の向上が見られた学校や児童を表彰するなどの活動を通して、規範意識や自己有用感の更なる向上が図れるように努めてまいります。また、子ども達への生活に関するアンケートから生活・学習習慣の状況を把握し、学校ごとの改善点を早期に見つけ対応いたします。

土日や平日の学習時間が少しでも増えるように、宿題や目標を細分化し、「短時間で取り組める課題」を提示したり、学習記録カードや達成表を活用したりするなどして学習の習慣化が図れるように努めてまいります。また、学力だけでなく自己有用感や生活習慣の維持・向上も推進できるように成功体験を積ませる学習を意識し、授業内で成果をすぐに確認できる活動を増やしてまいります。

引き続き、各学校において学力向上のための取組を推進してまいります。昨年度に比べ「記述式」の正答率が全国平均を下回ってしまったので、国語科だけでなく他教科においても文章を書く活動を充実させ、自分の考えをまとめる力がつくように日々の授業の工夫・改善に努めてまいります。

子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、学校だけでなく、家庭との連携が何よりも大切です。家庭と学校が協力し合うことで、子どもたちの未来への可能性をより一層広げることができます。今後につきましても、家庭と学校がそれぞれの役割を果たし、子どもたちの学力向上を図っていくことが求められます。引き続き、各御家庭での御支援・御協力をよろしくお願いいたします。